

事業群評価調書(令和5年度実施)

基本戦略名	1-3 長崎県の未来を創る子ども、郷土を愛する人を育てる	事業群主管所属・課(室)長名	教育庁 義務教育課	岡野 利男
施策名	2 郷土を愛し、地域を支える心豊かな人材の育成	事業群関係課(室)	高校教育課、生涯学習課	
事業群名	① ふるさと教育の推進	令和4年度事業費(千円)	※下記「2. 令和4年度取組実績」の事業費(R4実績)の合計額	8,187
	④ 子どもたちが直接自然と触れ合う体験活動の推進			552

1. 計画等概要

<p>(長崎県総合計画チェンジ&チャレンジ2025 本文)</p> <p>①我が国と郷土に誇りを持ち、明るく活力のある地域社会の実現を目指し、我が国と郷土の歴史や伝統文化等についての理解を深め、地域の実態に目を向けた学習活動を通して、社会に参画する力や地域の課題解決に主体的に関わる資質・能力を具えた、地域を支える人材を育みます。</p> <p>④ボランティア活動や自然体験活動、集団宿泊活動など、通常の学校生活では得られない様々な体験によって、子どもたちの見聞を広め、自然や文化に親しむことを通して、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、よりよい人間関係を形成する力や公共の精神の育成を目指します。</p>		<p>(取組項目)</p> <p>i) 我が国や郷土の伝統・文化、自然環境に関する学習の充実(事業群①)</p> <p>ii) 教科や総合的な学習・探究の時間等において主体的に郷土で学ぶ教育の推進(事業群①)</p> <p>iii) 地域ぐるみで展開するふるさと教育の推進(事業群①)</p> <p>iv) 県立高校でふるさと教育の実施計画と体系図を作成し、主体的・持続的な実施体制を確立(事業群①)</p> <p>v) 自治体、大学、産業界等とのコンソーシアム^{※1}を構築し、地域課題の解決等の探究学習^{※2}を県立高校で実施(事業群①)</p> <p>vi) 「しま」の将来について考えるプログラム等を通じたふるさとの未来を創ろうとする意欲の醸成(事業群①)</p> <p>vii) 世界遺産を活かしたふるさと教育の促進(事業群①)</p> <p>viii) 学校と連携した体験活動プログラムの作成による活動内容の充実と機会の提供(事業群④)</p> <p>ix) 県立青少年施設でいじめや防災等社会的課題に対応した体験活動の機会の提供(事業群④)</p> <p>※1 コンソーシアム: 複数の個人や組織が共通の目的のために活動する集団</p> <p>※2 探究学習: 問題解決的な活動(課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現)が発展的に繰り返されていく一連の学習活動</p>								
事業群	指標	基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	(進捗状況の分析)	
	①地域の発展や地域的課題の解決に向けて児童生徒が探究的な学習を行っている学校数(小・中学校)	目標値①	/	40校	80校	120校	160校	200校		200校(R7)
		実績値②	8校(R2)	97校	108校	/	/	/		進捗状況
		達成率②/①	/	242%	135%	/	/	/		順調
指標	基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	④新型コロナウイルス感染症の影響下ではあったものの、対策を講じながら自然体験活動に取り組む学校の割合が増えた。目標値には達しなかったが、校種ごとの実施割合は、小学校は100%、中学校は86.3%と、令和3年度を上回る結果となった。(R3:小98.4% 中77.4%)中学校においては、今後も継続して、各種研修会を通じて、自然体験活動の充実について理解を深めていく。		
④自然体験活動に取組んでいる小・中学校の割合	目標値①	/	100%	100%	100%	100%	100%		100%(R7)	
	実績値②	86.5%(R元)	91.1%	95.2%	/	/	/		進捗状況	
	達成率②/①	/	91%	95%	/	/	/	やや遅れ		

2. 令和4年度取組実績(令和5年度新規・補正事業は参考記載)

取組項目	中核事業	事業番号	事務事業名	事業費(単位:千円)			事業概要 令和4年度事業の実施状況 (令和5年度新規・補正事業は事業内容)	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)				令和4年度事業の成果等		
				R3実績	うち 一般財源	人件費 (参考)		主な指標	R3目標	R3実績	達成率			
				R4実績					R4目標	R4実績				
				R5計画	R5目標	R5実績								
事業実施の根拠法令等				事業実施の根拠法令等										
事業期間				法令による 事業実施の 義務付け	県の裁量 の余地が ない事業	他の評価 対象事業 (公共、研究等)	事業対象							
所管課(室)名														
取組項目 i v	○	1	長崎発 未来の創り手 育成プラン	3,605	684	10,127	「地域魅力化型高等学校支援事業」では地域と学校の協働によるコンソーシアムを構築し、「ふるさと教育支援事業」では進学希望者が多い普通科高校4校で県内企業説明会を行った。また、令和3年度新規「ながさき未来デザインSDGs推進事業」の「長崎を元気にするアイデアコンテスト」では21校が活動、研究発表を行った。さらに、「高校生アントレプレナーシップゼミ」では24名が8グループで活動を行い、起業家や行政関係者の支援を受けながらビジネスアイデアを構築し、発表会を実施した。	【活動指標】	20	20	100%	●事業の成果 ・地元行政機関や事業所などと連携し、地域活性化に向けた取り組みを行ったことで、多くの生徒達が、将来ふるさとへの発展に貢献したいという意識が高まった。 ●事業群の目標達成への寄与 ・各機関との連携の実績ができたことで、今後の連携がスムーズに行われ、また、参加校の教諭の指導スキルの向上も見込まれる。このことで、今後の他の取組への広がりや深まりが期待でき、社会に参画する力や課題解決に主体的に関わる資質・能力の育成につながっている。		
				4,398	1,029	10,714		20	21	105%				
				4,156	2,131	10,031		20						
			H30-R5			—			【成果指標】	85	100		117%	
			高校教育課	—	—	—		高校生	アイデアコンテスト参加校において、地域課題を解決し、将来、ふるさとへの発展に貢献したいという意識が高まった生徒の割合(%)	90	94		104%	
						95								
取組項目 i vi	○	2	しまの「ミライ」応援事業	687	380	7,011	離島に住む小学生を対象に、地域活性化に取り組む先駆者の講話や企業等での体験活動、参加者同士の意見交換等を行った。対馬市、壱岐市、五島市、小値賀町、新上五島町からの応募者51名のうち募集定員40名を決定した。その後、新型コロナウイルス感染症の影響による辞退が9名出たため計31名の児童が参加し、実施した。	【活動指標】	40	21	52%	●事業の成果 ・講話や体験活動、意見交換会等を実施したことにより、「しま」をはじめとする「ふるさと長崎県」を担っていく意欲が高まり、離島地域でのリーダー育成につながった。 ●事業群の目標達成への寄与 ・事業を通して、地域の発展や地域的課題の解決に向けた児童の意識が向上した。		
				917	497	7,653		参加者数(人)	40	31	77%			
			(R4終了)R2-4			離島振興法第1条			【成果指標】	90	100		111%	
			生涯学習課	○	—	—		対馬市、壱岐市、五島市、小値賀町、新上五島町に住む小学5,6年生	将来、島に貢献したいと思う割合(%)	90	100		111%	
取組項目 i vi	○	3	しまのリーダーチャレンジ事業				離島に住む小学生を対象に、本県を代表する企業や施設、SDGsを推進する企業や大学等の訪問など、多様な学びや体験の場を創出することで、本県の魅力を発見・実感し、誇りや愛着を深めるとともに、ふるさとを担っていく意欲やリーダー意識を高めるきっかけとする。	【活動指標】				—		
				1,482	808	7,716		参加者数(人)	40					
			(R5新規)R5-7			離島振興法第1条			【成果指標】					
							将来、島に貢献したいと思う割合(%)	90						
							対馬市、壱岐市、五島市、小値賀町、新上五島町に住む小学5,6年生							

取組項目 v	○	4	高校・地域連携イキイキ 活性化事業				「地域の子どもを地域で育てる」気運を地域と高校が一体となって醸成し、地元高等学校が担う役割を地域と共有し、社会に開かれた魅力ある学校にするため、県と離島半島部の市町で「高校・地域連携コンソーシアム」を設置し、地域振興の核としての高校の魅力化を図る。	【活動指標】 地域と連携した教育活動への生徒の参加割合(%)				-	
				13,555	9,240	10,802			30				
			(R5新規)R5-7	-									
			高校教育課	-	-	-	高校生、市町	【成果指標】 地域を舞台とした探究学習等により市町の魅力が発見できたと感じた生徒の割合(%)	70				
取組項目 ii	○	5	郷土学習資料作成事業		3,675	3,675	2,337	令和5年度版「ふるさと長崎県」を作成し、従来の冊子配布ではなく、県公式ウェブサイト上でPDFデータを公開した。全編にわたり掲載画像を更新するとともに、新規記事として「長崎県に『100年に一度の変化』が到来!」、「ふるさとのストーリーを語ろう!!～日本遺産～」、ふるさとの年中行事として「風流踊」などを掲載した。また、グラバーや一支国博物館、「『しま』は長崎県の宝!!」などの記事内容を見直し、一部更新して再掲載した。	【活動指標】 R3:作成配付部数(冊)	13,800	13,800	100%	●事業の成果 ・令和4年度の学校における活用は、従来の冊子によるものであり、その活用率は100%である。社会科や総合的な学習の時間等において、調べ学習の資料や読み物資料としての活用が定着していることが、高い活用率につながった。また、活動指標に関して、令和4年度はPDFデータへの移行作業と記事内容の更新を並行して行い、PDF版を作成することができた。 ●事業群の目標達成への寄与 ・社会科や総合的な学習の時間等の様々な学習活動において活用されることで、各学校における地域を舞台とした探究的な学習の充実に寄与している。
					324	324	2,296		R4-:作成数(回)	1	1	100%	
					324	324	2,315			1			
				-			【成果指標】 R3:郷土長崎への理解と愛情のある児童生徒の割合<小・中学校>(%)		90	90.6	100%		
			H16-	-				R4-:資料を活用した学校の割合<中学校>(%)	100	100	100%		
			義務教育課	-	-	-	県内公立小・中学校の児童生徒		100				
取組項目 iii	○	6	ふるさとの新たな魅力を創出するキャリア教育実践事業		2,880	518	7,790	7市町9中学校を拠点校として指定し、学校と行政機関、市町まちづくり担当部局、地元企業等が連携・協働しながら、地域の活性化や課題解決を目指す探究的な学習プログラムを開発し、実践した。各指定校の取組を動画にまとめるとともに、指定校へのアンケート結果を、これから実践に取り組む学校のためのアドバイス集にまとめ、それぞれ県公式ウェブサイトに公開し、周知した。	【活動指標】	9	11	122%	●事業の成果 ・9校すべての指定中学校が公開授業を実施し、地域ぐるみのふるさと教育を実現し、開発した学習プログラムとその成果を県下に向けて発信した。 ●事業群の目標達成への寄与 ・本事業を通して、ふるさとに対する愛着や誇りを持つとともに、地域の産業やそこで活躍する人々の思いや願いに直接触れることができ、地域に相違した職業観や勤労観の育成に寄与している。
					2,548	332	7,653		公開授業を行った学校数(校)	9	9	100%	
					-				【成果指標】	40	97	242%	
			(R4終了)R3-4	-			地域の発展や地域的課題の解決に向けて探究的な学習を行っている学校数(校)		80	108	135%		
			義務教育課	-	-	-	公立中学校の教員・生徒						

取組項目 iii	○	7	小中高が一体となったふるさと教育推進事業	8,884	4,926	12,346	5市町の小中学校12校を拠点校として指定し、ふるさとを舞台に地域の魅力を小学校から中学校まで学ぶ系統的なカリキュラムと高等学校との連携・協働の在り方を含めた体制づくりについて研究を進める。	【活動指標】 市町教育委員会への指導訪問(校)	21			-
			(R5新規)R5-6					【活動指標】 研究指定地区における成果発表会の回数(回)	5			
			義務教育課	—	—	—		【成果指標】 地域の発展や地域的課題の解決に向けて探究的な学習を行っている学校数(校)	120			
取組項目 viii	○	8	「しま」体験活動支援事業費	202	202	1,558	令和4年度は、県内の小・中学校や県立中学校の児童生徒938人が本事業により体験活動を実施した。また、「しま」の魅力を広く伝えるため、実施校から聞き取った活動内容をまとめ、各学校に情報提供を行った。	【活動指標】	3	3	100%	●事業の成果 ・新型コロナウイルス感染症の影響下ではあったが、しま体験を行った児童生徒数は、コロナ禍前と同様にまで回復してきた。しま体験活動を通じて、島の魅力、本県の魅力を感じる児童生徒が増え、ふるさと長崎を愛する心の育成につながった。 ●事業群の目標達成への寄与 ・島をもう一度訪れたいと思った参加者の割合は95%以上と高く、一定の寄与はできたものと捉える。
				552	552	1,531		各市町教育委員会に対する説明(回)	3	3	100%	
				989	989	772		【成果指標】	95以上	96.6	101%	
			H23-	—	—	—		島をもう一度訪れたいと思った参加者(%)	95以上	95.4	100%	
			義務教育課	—	—	—		小・中学生	95以上			

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i	我が国や郷土の伝統・文化、自然環境に関する学習の充実	<p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>地域と連携した探究活動や文化の理解、伝統芸能の継承を行う活動を継続的・体系的に行うために、すべての県立高校でふるさと教育の実施計画と体系図を作成し、公表している。計画に基づいてふるさと教育を展開しながら、適宜計画の見直しを図り、より実のある取組へと高めていく必要がある。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>実施計画及び体系図については、学校要覧及びホームページで公開しているが、各学校が計画に基づき実践を重ねる中で、探究学習の成果発表の機会等も活用しながら、学校を超えて取組を共有し、各学校の取組の活性化につなげるよう促す。</p>
ii	教科や総合的な学習・探究の時間等において主体的に郷土で学ぶ教育の推進	<p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>郷土学習資料「ふるさと長崎県」の活用状況は100%であり、教科指導やふるさと教育等、各学校の多様な学習活動における主体的な学びに活用できる郷土学習資料として、生徒の郷土に対する理解と愛情を深める役割を果たしている。今後は、PDF版の公開に伴い、周知・発信対象を拡大するとともに、掲載記事の更新や改訂を進めていく必要がある。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>中学生だけでなく、小学生へ活用を促す周知を市町教育委員会を通じて行うとともに、関係機関との協力・連携を図りながら、より主体的な学びを支える郷土学習資料として、内容の充実を図る。</p>
iii	地域ぐるみで展開するふるさと教育の推進	<p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>研究指定市町においては、学校と教育委員会や市町まちづくり担当部局、地元企業、商工会等、地域の関係機関等が連携・協働し、ふるさとの活性化や課題解決を目指した取組を行い、地域ぐるみのふるさと教育を推進することができた。今後は小学校や中学校といった校種ごとの取組を結び付け、各市町における特色と系統性のあるふるさと教育の推進に取り組む必要がある。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>「小中高が一体となったふるさと教育推進事業」において、研究指定市を中心に小学校から中学校の系統性のあるふるさと教育のモデルカリキュラムを開発するとともに、高等学校との連携も視野に入れた体制づくりを研究する。</p>

iv	<p>県立高校でふるさと教育の実施計画と体系図を作成し、主体的・持続的な実施体制を確立</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 「ふるさとの未来を担う高校生育成事業」、「ながさき未来デザインSDGs推進事業」により、高校生の地域課題に対する関心や探究スキルは向上している。また、令和3年度までにすべての県立高校でふるさと教育の体系図と実施計画を策定した。一方で小中学校におけるふるさと教育から一歩進んだ課題発見・解決能力の育成、生徒自らが創り上げる探究学習への転換に課題がある。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 「ながさき未来デザイン高校生SDGs推進事業」により、SDGsの視点から地域の課題を発見・解決し、主体的に行動することのできる地域リーダーの育成及び自ら枠を超えて行動を起こし新たな価値を生み出していく力をもち長崎の未来をデザインする人材を育成する。また、若手教員を中心とした研修を実施し、教員自身のアントレプレナーシップの醸成と、指導力の向上を目指す。</p>
v	<p>自治体、大学、産業界等とのコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等の探究学習を県立高校で実施</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 「地域魅力化型高等学校支援事業」により松浦高校において、地域と学校の協働によるコンソーシアムを構築し、地域課題解決に係るカリキュラム開発を行った。一部ではコンソーシアム関係者を中心に生徒の探究活動の「実践」に係る部分での支援が見られた。課題としては、松浦高校、松浦市で構築したコンソーシアムの枠組みが他地域においては十分に構築できておらず、地域ぐるみの取組として確立できていないことである。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 「新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)」において、このコンソーシアムの枠組みを継承し、探究学習の深化を図るとともに、モデルケースとして他地域にも展開し、離島・半島部を中心に地域ぐるみの探究学習推進の枠組みの構築を目指す。</p>
vi	<p>「しま」の将来について考えるプログラム等を通じたふるさとの未来を創ろうとする意欲の醸成</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 令和4年度は、県南部を活動の場所として講話、体験活動、意見交換を行い、参加者は「しま」や長崎県の魅力を再発見した。「将来、島に貢献したいと思う割合」が100%となるなど、将来の離島地域のリーダー育成につながる取組となった。県内各地域にて高い事業効果が得られる研修プログラムの開発及び台風や熱中症への対策が課題である。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 参加児童・保護者へのアンケート結果を基に、県内各地域を活動場所として、様々な児童に対応した新たな研修プログラムを開発する。また、熱中症予防や、関係市町教育委員会担当者と連携した台風接近時の対応などに努めていく。</p>
vii	<p>世界遺産を活かしたふるさと教育の促進</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 郷土学習資料「ふるさと長崎県」には、巻頭の折込記事において県内の世界遺産の概要を、離島を紹介する特集記事において島内の世界遺産の位置や概要が紹介されている。PDFデータ化に伴い、一部掲載画像を更新したり、記事内容を補足したりすることで、内容の充実を図った。今後は、掲載内容の充実と記事を活用した学習実践の充実を図っていく。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 ウェブ上でのデータ修正や編集が容易であるという特性を生かし、掲載している記事を整理・統合することで、子どもたちにとって、調べやすく分かりやすい紙面構成とする。また、教科横断的にふるさと教育が展開されるよう、各教科等の種研修会等において本資料の活用を指導していく。</p>
viii	<p>学校と連携した体験活動プログラムの作成による活動内容の充実と機会の提供</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 体験活動プログラムの作成にあたっては、学校との連携が重要である。まずは、学校との緊密な連携を図りながら、学校が求める体験活動プログラムについて、情報収集するとともに、参考となる活動プログラムを県から学校へ紹介する。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 活動後に実施するアンケート調査結果を参考に、学校のニーズや課題を把握して、活動プログラムの改善や活動内容の充実を図る。また、行程表をホームページ等で公開し、学校の体験活動を実施する際の参考になるようにする。</p>
ix	<p>県立青少年施設でいじめや防災等社会的課題に対応した体験活動の機会の提供</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、多くのプログラムが実施できなかった。今後は児童生徒を対象とした不登校支援や防災等に対応したプログラムの開発が必要である。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 生涯学習課と県立青少年教育施設協議会が連携を図り、プログラムの開発・充実に努める。また、実践の共有やプログラムの開発等の情報交換を行う。</p>

4. 令和5年度見直し内容及び令和6年度実施に向けた方向性

取組項目	中核事業	事業番号	令和5年度事業の実施にあたり見直した内容		令和6年度事業の実施に向けた方向性		
			事務事業名	※令和5年度の新たな取組は「R5新規」等と、見直しが無い場合は「—」と記載	事業構築の視点	見直しの方向	
			事業期間 所管課(室)名			見直しの方向	見直し区分
取組項目 iv v	○	1	長崎発 未来の創り手育成プラン H30-R5 高校教育課	地域課題解決や地域魅力化のための活動を高校生自ら計画し実行することで、起業家精神を持つ人材を育成することを目的とする「高校生アントレプレナーシップゼミ」では、参加生徒による新規ビジネスプランの提案だけでなく、起業家や企業、行政機関等と連携しながら提案されたビジネスプランの実装に向けて取組を進めていく。	①②	より多くの生徒・教員が起業家教育に触れる形式へとブラッシュアップしながら、より多くの学びの機会を創出していく。また、引き続き産業界と連携しながら、アイデアの創出にとどまらず、実装に向けた取組の段階へと高めていく方法について検討する。	改善

取組項目 i vi	○	3	しまのリーダーチャレンジ事業 (R5新規)R5-7 生涯学習課	R5新規	③	令和6年度は、県央地域を活動の場として離島地域のリーダー育成を図る事業を実施する。これまでの実績やアンケート結果等を基に研修プログラムの更なる改善に努めるとともに、事業の成果を広報・周知する取組の充実を図る。また、新型コロナウイルスの感染状況を注視しながら、参加者が安全に活動できるよう十分な対策を講じる。	改善
取組項目 v	○	4	高校・地域連携イキイキ活性化事業 (R5新規)R5-7 高校教育課	R5新規	⑤	令和5年度にコンソーシアムで協議した高校の魅力化を推進する事業を展開する。	拡充
取組項目 ii	○	5	郷土学習資料作成事業 H16- 義務教育課	R5新規	②	子どもたちの郷土長崎に対する理解と愛情を深めるため、本学習資料の果たす役割は大きい。今後も、引き続き掲載内容の充実を図るとともに、本学習資料の継続的で広範な活用を促し、子どもたちの郷土長崎に対する愛情と理解を深めていく。	改善
			小中高が一体となったふるさと教育推進事業 (R5新規)R5-6 義務教育課				
取組項目 viii	○	8	「しま」体験活動支援事業費 H23- 義務教育課	市町との関係課と連携し、「しま」の豊かな自然や文化等のよさを実感できるような活動や事業啓発の充実を図る。併せて、毎年発行している「しま」への修学旅行に関するリーフレットに、「しま」での体験活動例や参加者の声など、参考になるような情報を精選して掲載する。	②	「しま」での体験活動にかかる補助制度については、開始から10年以上が経過し、ここ数年活用している市町が1市しかなく、対象が限定的であるため今年度で廃止とするが、市町関係課との連携を密にするとともに、「しま」への修学旅行に関するリーフレットについて、活動例や参加者の声などを掲載し、より詳細かつ具体的な情報が提供できるよう取り組む。	廃止

注:「2. 令和4年度取組実績」に記載している事業のうち、令和4年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができていないか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要があるか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点